

試験場 コード						
受検番号						

H

国語 記述式問題における解答結果の確認表

参考 <記述式問題(第1問)解答結果の確認手順>

- 問題冊子への自分の解答の記録などと、本確認表の2～4ページの各設問の「正答の条件」とを比較し、「正答例」も参考に、設問ごとに、「正答の条件」の「自己チェック欄」の一つずつについて、自分の解答と合致する場合には○印を、合致しない場合には×印を書きましょう。
- 次に、「正答の条件」の「自己チェック欄」と、「段階」とを比較し、合致する「段階」の「自己チェック欄」に、○印を書きましょう。
- 下の〔確認欄〕の問1～問3の行には、次の場合に従って該当するものに○を付けましょう。
 - a ～ d：自分の解答が「a～d」のいずれかの「段階」に当たると判断した場合
 - 判断不能：自分の解答がどの「段階」に当たるか判断できない場合
 - 自分の解答不明：解答はしたが、何を記述したか覚えていない場合
- 各設問の「段階」を判断したら、本確認表の6～7ページを確認し、各設問の「段階」を表に当てはめて、記述問題全体の総合段階で「A～E」のどの段階に該当するか確認しましょう。
- 下の〔確認欄〕の総合段階の行には、次の場合に従って該当するものに○を付けましょう。
 - A ～ E：自分の総合段階が「A～E」のいずれかの「段階」に当たると判断した場合
 - 判断不能：自分の総合段階がどの「段階」に当たるか判断できない場合
 - 各設問の段階不明：いずれかの設問の「段階」が判断できないため、総合段階が分からない場合

〔確認欄〕

第1問

問1の段階	a	b	c	d	/	判断不能	自分の 解答不明
問2の段階	a	b	c	d	/	判断不能	自分の 解答不明
問3の段階	a	b	c	d	/	判断不能	自分の 解答不明
総合段階	A	B	C	D	E	判断不能	各設問の 段階不明

注：本確認表は試行調査においては配付・回収しますが、大学入学共通テストにおいては試験当日に配付せず、ホームページ等で確認できるようにする予定です。

第1問 問1		
正答例	例1 ・ことばを用いなくても意思が伝達できること。(21字) 例2 ・指さしによって相手に頼んだり尋ねたりできること。(24字) 例3 ・ことばを用いなくても相手に注意を向けさせることができること。 (30字)	
正答の条件	次の条件をすべて満たして解答している。	自己 チェック欄
	① 30字以内で書かれていること。	
	② ことばを用いない、または、指さしによるということが書かれていること。	
③ コミュニケーションがとれる、または、相手に注意を向けさせるということが書かれていること。		
問1の 段階	a 条件①～③のすべてを満たしている解答	
	b 条件②, ③を満たしている解答 (①のみ満たしていない)	
	c 次のいずれか (①は問わない) 条件②を満たしている解答 (③は満たしていない) 条件③を満たしている解答 (②は満たしていない)	
	d 上記以外の解答 無解答	



自分の「問1の段階」の記号は <input type="text"/> → 1 ページ目の該当する記号に○を付ける。
--

※正答の条件を満たしているかどうか判断できない誤字・脱字があった場合は、条件を満たしていないこととなる。

第1問 問2		
正答例	例1 ・(大人は) 自分から指示対象を指し示して、単語との対応関係を教えてはくれない。(33字) 例2 ・(大人は) 適切な対象を手にとって「これが単語に対応するものだ」と教えてはくれない。(36字) 例3 ・(大人は) 英語の先生がするように、本を手にとって「これが本だ」と教えてはくれない。(36字)	
正答の条件	次の条件をすべて満たして解答している。	自己 チェック欄
	① 40字以内で書かれていること。	
	② (大人は) 教えてはくれないということが書かれていること。	
	③ 指示対象と単語との対応関係が書かれていること。	
問2の 段階	a 条件①～③のすべてを満たしている解答	
	b 条件②, ③を満たしている解答 (①のみ満たしていない)	
	c 次のいずれか (①は問わない) 条件②を満たしている解答 (③は満たしていない) 条件③を満たしている解答 (②は満たしていない)	
	d 上記以外の解答 無解答	



自分の「問2の段階」の記号は <input type="text"/> → 1 ページ目の該当する記号に○を付ける。
--

※正答の条件を満たしているかどうか判断できない誤字・脱字があった場合は、条件を満たしていないこととなる。

第1問 問3

正答例	例1	・話し手が地図上の地点を指さすことで、指示されているのは地図そのものではなく、地図が表している場所であることが聞き手には理解できる。それが理解できるのは、他者の視点に立つ能力があるからである。(95字)	
	例2	・地図上の地点を指差して「ここに行きたい」と言った場合、「ここ」が示しているのは地図の実際の場所である。それが理解できるのは、指さした人間の位置に身を置くことで、指さされた人間が指さした人間と同一のイメージをもつことが可能になるからである。(119字)	
	例3	・地図上の地点を指差して「ここに駅がある」と言った場合、「ここ」が示しているのは地図に対応している実際の駅である。それが理解できるのは、指さされた人間が指さした人間の視点に立つことで、実際に示したいものを想像するからである。(111字)	
正答の条件	次の条件をすべて満たして解答している。		自己 チェック欄
	①	80字以上、120字以内で書かれていること。	
	②	二つの文に分けて書かれていて、二文目が、「それが理解できるのは」で書き始められ、「からである。」で結ばれていること。 ただし、二文目が「理解ができるからである。」で結ばれているものは正答の条件②を満たしていないこととなる。	
	③	一文目に、話し手が地図上の地点を示しているということが書かれていること。	
	④	一文目に、話し手が指示しようとする対象が実際の場所だということが書かれていること。	
⑤	二文目に、次のいずれかが書かれていること。 なお、両方書かれていてもよい。 ・指差した人間の視点に立つということ。 ・指差した人間と同一のイメージを共有できるということ。		
問3の 段階	a	条件①～⑤のすべてを満たしている解答	
	b	条件①、③～⑤を満たしている解答 (②のみ満たしていない) 条件②～⑤を満たしている解答 (①のみ満たしていない)	
	c	条件③～⑤を満たしている解答 (①、②は満たしていない) または、次のいずれか (①、②は問わない)	
		条件③、④を満たしている解答 (⑤は満たしていない)	
		条件③、⑤を満たしている解答 (④は満たしていない) 条件④、⑤を満たしている解答 (③は満たしていない)	
d	上記以外の解答 無解答		



自分の「問3の段階」の記号は → 1 ページ目の該当する記号に○を付ける。

※正答の条件を満たしているかどうか判断できない誤字・脱字があった場合は、条件を満たしていないこととなる。

(総合段階に関する説明は次ページ以降)

総合段階

「総合段階」はA～Eの5段階で表されます。

設問ごとの「段階」を下記の表に当てはめ、自分の「総合段階」を判断しましょう。

問1と問2の結果を縦軸にとり、問3の結果を横軸にとります。

それぞれの結果が重なった部分に記載されているアルファベットが総合段階になります。

次ページに例が載っていますので、表の見方が分からない場合はそちらを参照してください。

問1, 問2 (順不同)	a, a	C	B	A	
	a, b				
	a, c	D	C	B	A
	b, b				
	a, d			C	B
	b, c				
	b, d	E	D	C	B
	c, c				
	c, d			D	
	d, d				
	d	c	b	a	
	問3				

例：各設問での「段階」が、問1 = c, 問2 = a, 問3 = bだった場合

① 問1がcで問2がaなので、表中の縦軸の「a, c」の部分に該当します（順不同なので問1がaで問2がcの場合もこの行に該当します）。

③ 縦軸の「a, c」と横軸の「b」が重なる部分に表示されているアルファベット「B」が、この場合の総合段階になります。

問1, 問2 (順不同)	a, a	C	B	問3	b		
	a, b					A	
	a, c	B					
	b, b	D	C			C	B
	a, d						
	b, c	E	D			D	C
	b, d						
	c, c	D	C				
	c, d						
	d, d	d	c			a	

② 問3がbなので、横軸の「b」の部分に該当します。

